

平成二十八年度

修士論文・卒業論文題目

史学・文化財学科

〈日本史・アーカイブスコース〉

た門下生の退塾後について

秋好真梨子 本能寺の変について

小松 祐太 鎮西と琉球における源為朝

荒武 菜々 近代化における部落差別の変容

佐々木裕秋 中世大内氏における外交

生魚 真之 加藤清正と熊本城について

皿井 友規 熊本県内における西南戦争と民間への影響

池内 響 現代の図書館におけるヤングアダルトサービスの重要性和その

新坂上 遼 武家茶人、古田織部の生涯

尾籠 恭平 ヨーロッパ中世初期の空間と移動

相馬 綱介 上杉景勝の生涯について

今井 怜子 「飛脚」から「郵便」までの過程について

園田 康敬 日本における城郭の変遷

内田 奈織 護良親王の研究―その権力、政治的影響と失脚後の動向について―

高尾 奈穂 田沼意次について

安部 和城 古墳時代後期群集墳の群構造と築造プロセス―京都平野を中心として―

武村 実穂 源平合戦の実態について―流布しているイメージと史実との相違―

江口 寛基 厨房施設と煮沸具から見た隼人の特質

田代奈那美 勝者と敗者からなる幕末

種生 優美 大分県における近世灯籠研究

立石 徹 昌平黌儒者古賀侗庵の「世界認識」と海防掛

松園 菜穂 出土鉄製品に発生した錆の保存科学的な研究―発掘調査および保管時の応急処置を目的として―

田ノ上里菜 明治期の織維女工について

勝尾 美里 紡績女工の「女工哀史」的労働について

仲山 大地 戦国期東国における「半手」と「半済」について

千原 和己 終末期方墳の意義について

浜田 昭弘 真田家三代について

中嶋 小春 糸島における支石墓の導入と展開について―稲作・大型蛤刃石斧・集落からのアプローチ―

原田 沙綾 榎本武揚と移民政策

川井田正太 江戸の三大改革

原田 理沙 明治初年における軽犯罪法―文明開化期の民族生活の規制―

北川 裕基 龍馬の武器・艦船購入と船に関する二大事件について

福田安希子 関ヶ原の戦いについて

小牧 賢生 咸宜園において漢詩教育を受け

関ヶ原の戦いについて

紙本 大 長篠の戦い

関ヶ原の戦いについて

小牧 賢生 咸宜園において漢詩教育を受け

関ヶ原の戦いについて

小牧 賢生 咸宜園において漢詩教育を受け

関ヶ原の戦いについて

小牧 賢生 咸宜園において漢詩教育を受け

関ヶ原の戦いについて

小牧 賢生 咸宜園において漢詩教育を受け

関ヶ原の戦いについて

小牧 賢生 咸宜園において漢詩教育を受け

関ヶ原の戦いについて

松永浩太郎 安土城からみる織田信長の政治
構想

森永 泰司 松山城とその周辺の城々

山下 善由 尼崎藩における藩札の性格につ
いて―信用貨幣論争の検討―

山田恵里奈 明治期の武士道―国軍整備策を
中心に―

山中 貴喜 豊臣秀吉の出自と出世について

吉武 健太 太平洋戦争の終戦と御前会議

吉野 優衣 日米交渉―日米諒解案から開戦
まで―

吉本 幸樹 武断政治と文治政治について

〈世界史コース〉

衛藤 聖香 イギリス革命の経過と意義

榎田 遥輝 スリランカ民族と歴史

遠藤 豪 アメリカ合衆国における黒人の
歴史

大場 皓介 三国時代における蜀漢政権の人
的構成―劉備と臣下のつながり
に注目して―

岡部 拓斗 百年戦争における転換点として
のオルレアン包圍

小野友佳理 百年戦争とエドワード3世

金子穂奈美 「死の舞踏」の成立背景と聖俗

木村 唯 界との関連性について
ヨーロッパ中世の農業革命にお
ける農業技術の革新

宮瀬 裕理 中越戦争について

佐竹 史帆 マヤ神話『ポボル・ヴフ』から読み
取れる儀礼表現とマヤの世界観

竹田津孝介 中・近世ヨーロッパにおける魔
女狩り

塚崎 未幸 画家とフランス革命

辻 保乃香 新大陸征服における宗教の変容

遠嶋 優太 キューバ危機―アメリカ・ソ連・
キューバそれぞれの懸念・思惑・
葛藤―

豊嶋 忠巖 ヒトラーの反ユダヤ政策

野田 昂輝 イスラム世界の奴隷とオスマン
帝国の奴隷について―イエニ
チェリを中心に―

野村 彩夏 外交転換期としての七年戦争
(1756―63)

藤瀬 真菜 ユダヤ人の民族意識の保持と民
族存続の歴史についての考察

森崎 章貴 ビザンツ帝国のテマの軍事的反
乱―8世紀前半から9世紀前半
にかけて―

山本 達也 塩金貿易について

渡邊 普海 唐前半期における宰相の人事に
ついて

〈環境歴史学・文化遺産学コース〉

朝廣 栞 宮崎の神々―神々のゆかりの地
と行事―

阿比留香春 対馬の盆踊り―その特色と保存―

阿比留知美 巫女と遊女―神と女性のかかわ
り―

板野真里菜 人吉・球磨の隠れ念仏―信仰の
知恵―

今岡 和磨 温泉と人とのかわり―別府温
泉を中心に―

江藤 涼 ジブリを読み解く―神・ヒト・
自然―

折田 裕斗 豊玉姫神社の歴史と伝統

後藤 舜果 天草四郎と益田時貞の乱

澤野 薫平 災害の記憶を読む

高橋 孔明 景観と祭礼から読む開発史―中
津市・豊後大野市の事例を中心
に―

波多野久美 六郷満山の峯入り―峯入りの復
活とその後―

村上 大樹 矢部茶―地域と茶のつながり―

〈考古学・保存科学コース〉

- 東 啓二 膳と日本の食文化について
- 有村 源喜 南九州における地下式横穴墓の形成の変化について
- 安藤佳南子 埋納銅矛の分布と銅矛祭祀について―大分県における埋納銅矛を中心として―
- 大原 雅弥 鉄炮の普及についての研究―大友氏・毛利氏関係文書を素材として―
- 菊池 圭祐 17世紀初頭の城郭遺構から見た縄張りについての研究―築城の名手藤堂高虎が手掛けた城―
- 金城凜太郎 三山時代から琉球王国時代までのグスクの変容について
- 倉員 明穂 日本刀における形状の歴史的変遷
- 黒原 啓太 豪族居館について―西日本を中心に―
- 後藤 佳菜 大池西古墳群出土遺物の保存修復と自然科学的調査
- 佐藤 博紀 中世ヨーロッパにおける城と火薬革命の関係性について
- 塩見 恭平 中九州の弥生時代における木製農具の研究
- 菅 峻行 大分県内における中世城館を通じた寺社勢力と土豪達についての研究
- 園田 寛 熊本城の石垣の変遷について
- 高木慎太郎 宗像地域出土須恵器から見る流通範囲と地方文化
- 竹永 昂平 横穴墓における地域的特徴の分析―九州の横穴墓についての検討―
- 野上 慧 有明海・玄界灘沿岸の漁撈文化―縄文時代の骨角器を中心として―
- 藤丸紗弥佳 国宝及び特別史跡臼杵磨崖仏群における周辺環境と劣化
- 松尾 光 豊前地域の窯跡について
- 柳瀬 茉希 弥生時代から古墳時代における、九州における装身具としての貝輪の変化について
- 山脇 拓昌 墓地の形成過程から見た立岩遺跡の再検討